

## バンクーバー便り 36～サマー・バケーションと転居

[2025年10月4日(土曜日)午前11時40分(日本時間2025年10月5日(日曜日)午前3時40分)]

皆さんこんにちは。バンクーバー便り 36 をお届けします。

便り 35 から少し時間が経ちましたが、皆さんお変わりありませんでしょうか。今回は私たち家族がこの夏に過ごした旅行と転居について書きたいと思います。

今夏最初の旅は 3 泊 4 日のケベック市観光でした。カナダ東部にあるフランス文化を色濃く残す街です。ケベック州民 Quebecer は主にフランス語を話します。お店に入ると bon jour と挨拶されます。歴史地区は世界遺産になっており、殊にホテルのフェアモント・シャトウ・フロンテナック Fairmont Chateau Frontenac は観光名所の一つです。私たちはここを基地にして Quebec 市内を散策しました。小パリと称されるだけに食事はとても美味しい、街並みは洒落ており、モンマルトル Montmartre を彷彿とさせる下町風景 besse-ville は心を弾ませました。

2 つ目の旅は 4 泊 5 日の Toronto です。Toronto は 40 年前に留学したことのある街ですが、現在は都会化が進み、高層ビルが林立する味気ない街に変貌していました。ここでもお決まりの観光コースを選択しました。CN Tower—御上り様の第一目標ですが僕は疲れてホテル蟄居、水族館一場所によって通路が狭く大層な混雑、動物園一広大な敷地のため柵が小さく感じられ、サファリもどきの動物園、Casa Loma—水力発電で富を成した大富豪 Sir Henry Pellatt の豪邸で、2008年の改裝で 40 年前より豪華、Titanic Exhibition—郊外の Rogers Stadium 近くの広場で開催され、海底から回収された船の部品や被害者の遺品・dying message などが展示され、海底の Titanic を潜水艇で観察する virtual 体験もでき、心打たれる内容でしたが、Rogers Stadium で行われた BLACKPINK のコンサートと重なり、道路には黒とピンクで「正装」した男女でごった返し、タクシーも迎えに来られず、結局、駅まで歩く羽目になりました。

3 つ目は Greater Vancouver Zoo のサマーキャンプに娘が参加しましたので、近くの町 Aldergrove のホテルに 4 泊 5 日滞在しました。今年は子どもたちが動物飼育員の人たちと一緒に動物の世話をするという活動で、動物好きの子ども達にはたまらない体験だったと思います。昨夏も娘は年少児向けキャンプに参加しましたので、この町は既に観光済一正しくは観る場所が少ないので、今回は骨休めの旅でした。

4 番目は 1 泊 2 日の Victoria の旅でした。交通手段として大型フェリーを利用しましたので Vancouver からは車移動の時間を含めて片道 2~3 時間になります。旅行中はあいにくの雨で、Whale Watching は荒波の中で Tail Watching になりました。この旅行には妻の職場の元同僚も同行しました。

最後は California Orange County に義姉を訪ねる 2 泊 3 日の旅でした。義姉とはいえ実際は私よりも 20 歳以上もお若いのです。彼女の暮らす Orange County は比較的治安がよく、しかも California の乾燥した空気に包まれた砂漠的気候ですから、僕も久しぶりに朝から住居者専用プールにつかりました。家内と娘は姪と甥を連れて近くにある Disney Land に出かけました。娘はこれまで怖くて乗れなかつたジェットコースターにも乗れました。こちらの入場料は目が飛び出るほどお高いので、僕は遠慮して部屋で休んでおりました。

旅行のラッシュが終わりました。これで少しゆっくりできると思った矢先、娘の学校や住居の環境に不安を感じる出来事があり、以前から予定していた転居を早めることになりました。

そして 9月初め、University of British Columbia (UBC)内に condominium が見つかり、評判の良い小学校も徒歩 5 分ほどの距離にありましたので、大慌ての引っ越しが始まりました。UBC のある半島には、Point Grey Campus(PGC)と大学寄贈地 University Endowment Lands(UEL)という 2 つの区域があります。UEL は広大な森林公園 Pacific Spirit Regional Park が主体ですが、4000 人近い先住民の人たちが暮らしており、彼らの「私有地」として州や市の管理を受けていません。PGC には 5 万 5 千人程度の職員と学生がいます。森と海に囲まれた静寂な環境と大学関係者の多い学究的雰囲気、車や店舗の少ないことによる落ち着きのある清潔な街並み、Vancouver 中心部からの人の出入りが少ないことにも関係するのか気さくで節度のある住民の態度、若者から高齢者そして様々な人種が織りなす開放感、などと表現できる地域です。Hampton Place は 1980 年代に UBC に初めて建設された居住地区で、Tudor 様式の家屋が並ぶ様子は「おとぎの国」のようです。この中にある私たちの condo は Pemberley と呼ばれています。これは Jane Austen の恋愛小説『高慢と偏見 Pride and Prejudice』に出てくる Fitzwilliam Darcy の屋敷名でした。何とも大げさな naming に驚きますが、周囲の住宅を含めて風格のある家並みに魅了されます。PGC 内では商店数も限定され、派手な看板もありません。Pemberley 近くの Wesbrook Place には、スーパーマーケット・専門店・レストランなどが compact にまとまった商店街があります。区域内のインフラ整備などは大学が管理者になっており、大学の自治独立性が厳然と保たれています。このことでこの地域の統制された美観が実現されているようです。真に UBC は生糸の大学都市といえます。

追伸：転校を希望した娘の小学校は物凄い人気校のためすぐには転校できず、本校にあたる University Hill Elementary School (UHill) に先ず転校することになりました。UHill までは車で 6, 7 分の距離があり、毎日の送迎で car sharing をするのは煩雑になりました。そこで TOYOTA の水素電池車の MIRAI—こちらではミレイと発音一を購入することにしました。低公害の電気自動車というだけでなく、販路拡大のためか discount 額が大きく、日本の販売価格のほぼ半値で購入できました。心配の一つは Hydrogen Station が少ないことです。バンクーバー市内に 5, 6 力所、その中の 1 つは condo から車で数分の所にあります。この station の側には太陽光で水素ガスを生成する施設が造られ、その仕組みを説明するためのパネルが設置されています。様々な不安はありますが、MIRAI に賭けてみることにしました。